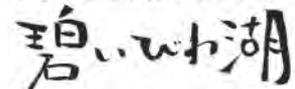


# 牛乳パックはどこへ行く？

牛乳パックリサイクル見学ツアー報告（2013年7月25日）



みなさんは、みんなで集めた牛乳パックがいったいどのようにリサイクルされているか、ご存じでしょうか。このたびNPO碧いびわ湖では、関西ミルクロードの会の1円基金の支援を受けて、牛乳パックの回収と再生品の利用促進に取り組んでいただいているみなさんと、リサイクルの現場を見学するツアーを実施しました。



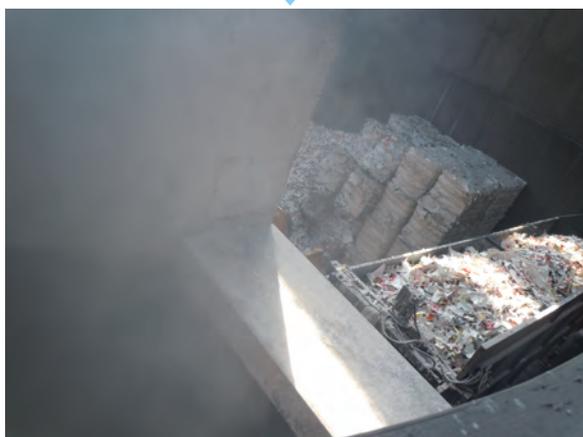
平和堂大津店 店頭での回収ボックスを見学

朝の9時に大津駅を出発し、一行は愛媛へと出発しました。バスでの移動時間は4時間!!という事で、バス内では自己紹介をし、今回工場見学を訪れて何をみたいのかを発表していきました。年齢や職業の違う多様な方々が同席しているこのツアーでは、いろいろな視点から工場を見学することができそうだと感じました。また、碧いびわ湖代表理事である村上さんから「おかえりティッシュ」と「ただいまロール」の説明や、碧いびわ湖の活動について知ることができました。淡路大橋を通り、天気が良かったおかげで美しい瀬戸内海を一望できました。



車内にて 回収から愛媛に到着するまでをビデオで解説

そしてやっと1つ目の見学先である「イトマン株式会社」に無事到着することができました。まずは腹ごしらえです。お弁当をみなさんでおいしくいただきました。その後、おまじかねの工場見学が始まりました。まずは原料のパルプをどのようにして水に溶かしているのかを見せていただきました。次に工場内での一連の作業の紹介を実際の機械を見ながら学ぶことができました。出来上がった紙の大きなロールに圧倒されつつ、トイレトペーパーが私たちの知っているサイズになるのを見守っていました。工場内は折からの猛暑と工場の熱とで歩いて見てまわるだけで汗をかくほどでした。「イトマン」で一番みなさんが関心を持って見ていたのは、トイレトペーパーやティッシュを包装する様子だったのではないかと思います。一定のリズムで包装してゆく光景はなかなか見ることはできません。オートメーション化され、効率的に量産されていますが、最終チェックは人の目であったり、普段使っている製品には多くの方が携わっていることを実感しました。



AIPA 牛乳パックを分解する「パルパー」の大迫力にびっくり

1つ目の見学地に別れを告げ、一行は2つ目の見学先である「愛媛パルプ協同組合 AIPA」へと移動。「AIPA」では回収した牛乳パックや古紙からパルプがどのようにしてできるのかを見学しました。まず驚いたのは、うず高く積まれた牛乳パックや古紙の山でした。5～10mくらいはありそうでした。牛乳パックを薄いフィルムとパルプに分解する時の機械がこの見学地でのハイライトでした。大きな熱湯鍋に牛乳パックを投入し、洗濯機のように回します。大迫力の作業工程にみなさん目が離せない様子でした。工場見学の最後には出来上がりたてのパルプの前で記念撮影をしました。帰りのバスの中では今回のツアーの感想を紹介し、大津駅で解散しました。

長い道のりで大変でしたが、滋賀で回収された牛乳パックや古紙も同じ道のりと時間をかけて愛媛県まで運ばれていることを思うと、なんだか感慨深いです。

今回のツアーに参加して、回収されている牛乳パックや古紙が私たちの知らないところにいるような方の力を借りて、また製品として手元に返ってきていることがわかりました。リサイクルすることは良いことである、とは知っているものの、リサイクルする工程や大変さまでは知りませんでした。これから感謝してリサイクル製品を愛用していこうと思いました。

(滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル 石森結衣)



AIPA 牛乳パックからできたパルプを見せてもらう



イトマン いったん大きなロールになります



イトマン 一つ一つ人の目で確認して製品に



●使い捨て時代を考える会 黒田充恵さんファミリー

トイレットペーパー一個一個を人の目でチェックすることにびっくりしました。大そうな工場、機械、働く人々、すべての紙を大切に感謝して使わなくてはと実感しました。(充恵さん)

どうやってトイレットペーパーができているのか、しっかり見れたのでよかったです。勉強になりました。(孫の志さん)

といれっとペーパーがどうやってできるかちゃんとみれたのでよかったです。(孫の森海さん)

大変大規模な設備で、紙の再生が行われている事に驚きました。「地球に優しい」ことを実感するのは難しいことだよなあとと思います。(資本、労力、施設の工事や使用電力・水など) 子どもたちが理解できたかどうかは?ですが、いつの日にか、今日のことを思い出して考えてくれたら○というところでしょうか。(娘の彩さん)

●東近江市 西堀達也さん

実際の工程を見て、効率よく機械化されている所に感心した。分別することの重要性を改めて認識しました。もっともっとみなさんに啓発して、再資源化する量を増やしていくことが重要だと思いました。

## 参加者のみなさんの感想

●生活協同組合コープしが 川口洋史さん

多くの人達の手で製品が造られることのすばらしさを感じました。もっと利用しなければ・・・AIPAさんでは、一般古紙での原材料以外の異物の多さに驚きました。個々人のモラルの必要性を感じました。

●株式会社平和堂 吉川満治さん

牛乳パックからティッシュ、ロールになる工程は非常に多い工程数をへて商品になっていました。牛乳パック 2t は約1時間でパルプになることが分かりましたが、週2～3回しか作業をやってないようなので、もっと回収量を増やすように工夫、努力したいです。両方の工場とも整理された安心できる企業と認識できました。

●東近江市 中嶋昌之さん

ラベル等を先にはがすのかと思っていましたが、細断して、様々な工程を経て分離されることが分かりました。イトマンさんの資料より、トイレットペーパー1本作るのに牛乳パックは約7.5本必要でした。平和堂さんの回収ボックスから始まり、牛乳パックの気持ちになってリサイクルされることができました。パルプを初めて見れて勉強になりました。連続する2箇所に行けてよかったです。